

「災害から命を守る」

昨年、3月11日に発生した大地震による強烈な揺れと巨大な津波は、東北のまちを一変させました。「想定をはるかに超える大災害が、いつどこで起こるか分からない」。そんな現実を私たちは思い知ることになりました。

ここ丹波市でも、過去に例のない大災害が、これから先、起こらないという保証はどこにもありません。いつ起こるか分からない災害。その時、自分の命、また、家族の命を守るため、日ごろからの「備え」が求められています。

平成 21 年 8 月 豪雨災害（青垣峠）

土砂災害にも警戒が必要

大雨による洪水とともに恐いのが土砂災害。例年、梅雨の時期を中心に全国各地で発生しています。それらの多くは、何日か続く長雨や集中豪雨が原因で発生しています。

実は、豪雨で命を落とす原因の多くは土砂災害によるもの。しかし、その発生の前には、何らかの予兆がある場合があります。川の水が急激に濁りはじめたり、斜面から水がわき出しはじめたりする場合は、危険のサイン。少しでも危ないと感じたら、早めに安全な場所に避難しましょう。

土砂災害を知り危険を察知する

▼土砂災害の種類

- ①土石流
谷や斜面に溜まった土砂が、大雨による水とともに一気に流れ出す。
- ②がけ崩れ
急ながけ地や山の斜面が突然崩れ落ちる現象。逃げ遅れる人も多い。
- ③地すべり
岩盤などのすべりやすい層の上にある斜面が、しみ込んだ雨水などの影響でゆっくり動き出す現象。
- ▼こんな時は早めの避難を
 - ・斜面のわき水の量が増える
 - ・斜面に亀裂が入る
 - ・川が濁り、流木がまざりはじめる
 - ・地鳴りの音が聞こえてくる など

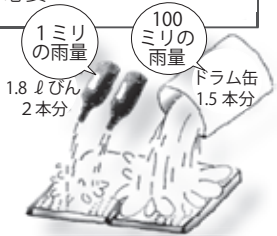
長雨が続く時などは注意が必要。市内でもたびたび土砂災害が発生しています

雨の降り方から災害の発生を予測

1時間雨量(ミリ)	予報用語	受けるイメージ	災害発生状況
10～20	や 強い雨	ザーザーと降る	地面一面に水たまりができ、話し声が聞きとりにくくなる。くつつくときは注意が必要
20～30	強 い 雨	どしゃ降り	傘をさしていても濡れてしまうほどの雨。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れの心配もある
30～50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなる。道路規制も行われ、避難の準備が必要
50～80	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	あたりが水しぶきで白っぽくなる。屋内で寝ている人の半数くらいが気づくほどの激しい雨
80～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感で恐怖を感じる	大雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

1時間に雨が量2枚の広さに降った場合の雨量の目安

1ミリ…1升びん約2本分
100ミリ…ドラム缶約1.5本分



これからの季節、大雨には注意を
今年も雨の多い時期を迎えます。台風の襲来や梅雨前線の停滞などによる大雨、短時間で局地的に大雨を降らす集中豪雨が発生しやすい時期になります。雨の降り方に注意し、気象予報をこまめにチェックするなど対策をしましょう。また、いざという時には、速やかに避難できるように、非常時の持出品を準備するなど、日ごろの備えが必要です。



平成 21 年 8 月 1 日に発生した集中豪雨は、市内に大きな被害をもたらしました。写真は、山から多量の水が集落に流れ込むようす（青垣町桧倉）

〔防災行政無線 受信機の点検方法〕

①電源を入れたままコンセントを抜いてください。



②自動的に乾電池ランプ（青垣地域は電源ランプ）が点灯すれば問題ありません。ランプが点滅、点灯しない場合は、乾電池を交換しましょう。

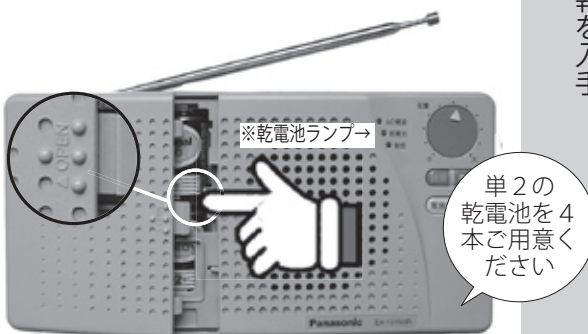


テレビのデータ放送でも災害関連情報を入手！

NHK神戸放送局とサンテレビジョンのデータ放送を使って、災害時に丹波市が発信する避難勧告などの情報を文字情報で確認できます。

■お知らせする内容

避難準備情報、避難勧告、避難指示、避難所の開設、河川の水位や雨量など



※乾電池カバーはふたを押さながら左にスライドすると開きます（青垣地域は別機種ですが、乾電池カバーは受信機前面にあります）。

「防災行政無線」で災害時の緊急情報を入手
「日ごろの点検を忘れずに」

自主防災組織が生みだす地域の安心

地域の力で災害に備える

災害が発生し、いざ避難が必要となった時、あなたはどうしますか？「自分で最寄りの避難所に行けるから大丈夫」多くの方はそうかもしれません。しかし、お年寄りや身体の不自由な方などのなかには、自力での避難が困難な場合があります。そんな時、頼りになるのが近所の人たち。自分一人では難しいことも、手を差し伸べられることによってできることがあります。また、東日本大震災のような大災害が起きた場合は、お互いが助け合うことによって救える命があります。

日ごろから地域で防災について話し合い、一人暮らしのお年寄りに声をかけることなどによって、地域の防災力を高めることが大切です。



昨年、上垣自治会自主防災組織（市島地域）が、お年寄りなどを安全に避難所まで連れて行くための訓練を実施。被救助者を迅速に車イスに乗せる方法などを実践形式で学びました。地域の特色などを考慮した取組みを行い、地域の人たちが安心して暮らすことのできる環境づくりが行われています。

みんなで地域を守る
——自主防災組織とは——

「自分たちの地域は自分たちで守る」。そんな理念のもと、地域住民で構成されるのが自主防災組織です。定期的に防災訓練や防災講習会などを行い、防災の知識と意識の向上を図ったり、災害時には、協力して初期消火や避難誘導を行ったりするなど、地域の被害を最小限に抑える取組みを実践しています。

自主防災組織の組織化と育成を支援

丹波市の自主防災組織の組織率は65.4%（平成23年度末現在）で、全国平均に比べると若干低いのが実情です。市では、地域の防災力の向上をめざし、引き続き自主防災組織の組織化を進めるとともに、自主防災組織の育成を支援します。

■インタビュー 自主防災組織の取組み

自主防災組織が地域に安心感をもたらす



本郷自治会（氷上地域）
前自治会長 荻野 義明さん（65）

平成23年度に本郷自治会長を務め、本郷自治会自主防災組織の役員も兼務。平成16年10月に発生し、市内各地に大きな被害をもたらした台風23号では、自らも被災を経験

本郷は、すぐ近くに一級河川の加古川が流れ、土地も低い所にあり、過去に何度か水害を経験しました。平成16年の台風23号では、集落の半数近くの家が浸水。いざ避難しようにも道路が冠水し、危険を覚悟で避難所まで歩いたのを覚えています。その翌年、このままではいけないと地域のみんなで話し合い、自主防災組織を立ち上げました。以来、自主防災組織の役員が中心となって、災害時の対応についての取り決めをしたり、防災訓練などを実施したりするなかで、少しずつ地域の防災意識が高まりました。

また、一人暮らしのお年寄りなど、支援を必要とする人を事前に把握することで、地域住民が協力して避難誘導などの手助けを行う体制も整ってきました。これからも、自主防災組織が中心となって「地域の防災力」を高め、みんなが安心して暮らせる地域にしていきたいですね。



台風23号の大雨は、氷上町本郷をはじめ、市内の各地で床上・床下浸水や土砂崩れを引き起こしました（写真は氷上町横田付近）

自助

災害に備え、自己防衛を

自分、そして家族の命を守るために

災害が起きた時、自分の身は自分で守る「自助」が防災の基本となります。日ごろから、自分や家族を守るため、さまざまな取組みを実践されている足立輝実さん（62）にお話を伺いました。

輝実さん夫婦と両親、さらに、娘夫婦の3世代が同居する足立家。「家には92歳になる高齢の父親と7歳の孫もいます。娘婿は、昼間仕事に出ているので、いざ災害が起きれば自分が家族を守る立場になりますね」と輝実さん。そのため、「普段から災害に備えることが大切」とおっしゃいます。その言葉の通り、台風が接近する予報がでれば、停電に備え、各部屋に懐中電灯を準備。「農協さんからいただいた非常持出袋もいつでも取り出せるように準備

しています。阪神淡路大震災では、ボールが役に立ったと聞き、さっそく軒下に置きました」と備えに余念がありません。

長年、消防団員としても活躍された輝実さん。災害現場での経験をもとに、家族には災害の恐さやいざという時の対処法についても教えておられます。「命にも関わることでずから」と輝実さん。こうした普段からの備えと高い防災意識が、今、求められています。



山南町奥在住
足立 輝実さん（62）
足立純未奈さん（7）

「自助」「共助」「公助」は命を守るネットワーク

災害が起きた時、行政による「公助」はいうまでもありませんが、最も大切なのは、自分、そして大切な家族を守ることです。

大洪水や大地震などが発生した時、その災害の規模が大きくなればなるほど、「いざという時どうするか」という個人の普段からの心構えが大切になります。そして、個人の安全が確保できてはじめて地域の人たちと共に助け合う「共助」が実現します。災害に備え、「自分でできること」「近所の人と共にできること」を考え、いざという時に行動を起こすことで地域の防災力が高まります。

「自分たちのことは自分たちで守る」という主体的な意識が働くことで、安全な暮らしに向けた一歩を踏み出せるのではないのでしょうか。

「丹波市防災メール」への登録はもうお済みですか？

市では、災害時、あらかじめ登録いただいた携帯電話やパソコンに、気象警報や市からの緊急情報をメールで配信する「丹波市防災メール」を運用しています。万が一の災害発生時に、いち早く情報を入手し、危険の回避、安全確保に役立てるため、ぜひ登録してください。

【送信する情報】

- 緊急気象情報…地震、気象警報など
- 緊急情報…避難情報など
- お知らせ情報…防災に係る情報

詳しい登録方法は、市のホームページにも掲載しています。



「丹波市防災メール」
登録URL
tamba@bosai.net

非常持出品には ラジオ、懐中電灯、水を必ず 携帯しましょう



非常持出品は、「丹波市防災マップ」でも確認できます。